

福祉社会の一翼を担う者として

私どもは 2009 年（平成 21 年）から 3 年ごとに中期基本計画を策定しております。市の計画と密接につながることで、また社会福祉法人としてご利用者のニーズに応えることという視点で検討し、社会状況や制度環境を踏まえて策定するものです。

市の第五期長期計画に「市の施策も、かつての新規・拡大の時代を経て、新しいニーズへの対応を踏まえたリデザイン・リニューアルの段階に入った」という一節がありました。私どももこうした認識は必要と考え、そのうえで地域の福祉向上のためにどう行動すべきか、ただいま次の 3 年間の取り組みを計画しているところです。

さて、広報紙「ふれっそ」は私どもの活動を市民のみなさまにお伝えすること、そしてご意見や感想をいただきながら、法人の事業のより良い発展と相互の理解が深まることを願って発行しております。その第 1 号は 2008 年（平成 20 年）8 月 1 日発行でした。この年、国は新しい社会保障の在り方をめぐる議論を始めています。そして誰もが安心して利用できる社会保障制度へと舵を切るべく「社会保障と税の一体改革」が強調され現在に至っています。

このような制度環境の変化の中、私どもは基本理念に沿って、地域における公益性を念頭においた取り組みを（微力ではありますが）進めてきました。福祉社会とは、社会の構成員が福祉に対して理解と関心を持っていること、そして社会の様々な主体が福祉サービスを提供しているという 2 つの側面があると言います。武蔵野では行政の施策に加えて地域の方々の活発な動きがあります。その福祉社会がいつそう発展できるよう、私どもも福祉の担い手として引き続き活動を展開していきたいと思えます。

令和 2 年 11 月 安藤 真洋